

# 高知大生が中学生の授業支援

高知市立城西中学校（青木和秀校長）と、高知大学教育学部教育心理学研究室では、昨年11月から、学校および教員の抱える負担軽減、学びの主体者である中学校生徒のさらなる可能性を育むことを目指し、協働連携した新たな学習支援を、大学の準正課活動として行っている。

準正課活動とは、「授業とは異なる形で、教員による教育支援を行う仕組みのもとでの取組み。単位の付与はありませんが、大学が公的支援を行う」もの。

協働連携の取り組みの一つに、水曜日の放課後に行われる「学びSTATION」数学教室」と、「Let's Enjoy English」がある。「学び」は、数学が苦手な1、2年生を対象に、授業の復習やテスト対策などを行う。「Let's」は、「親しみを持って学習に

高知大学の留学生などを交えながら、ゲームなどを通して英語を使って交流するというもの。「学び」は、一足早く昨年5月から開始している。年齢の近い大学生に教えてもらうことにより、「親しみを持って学習に

取り組む」ことができる。また、学校側にとっても、教員不足の時代に、「大変助かる」という。もう一つの取り組みは、月、水曜日の数学と国語の授業で、教師と大学生で行うティームティーチング。こちらの取り組みは、学生も課題を設定して、大学での研究のために役立てているという。

カードゲームに熱がこもる

これらの取り組みを進めていく上で、城西中学校の学校運営協議会も一役かっている。高知大学の野中陽一朗准教授も協議会のメンバーであり、取り組みを進めていく上で大いに活躍している。

